

原発事故から学ぶこと

(この文章は、2012年3月発行の「原発事故のはなし2」に掲載したものです。我々ワーキングでこのテーマに取り組むにあたり基本的な考えとしているもので、実際に使われる児童・生徒の皆さんにむけてメッセージしました。)

【1】みんなに知ってほしいこと

① 原発事故で、福島県の多くの地域が放射能に汚染されたこと、また日本の広い範囲にも放射能汚染が広がったこと

福島第一原発が事故で撒き散らした大量の放射性物質は、原発が建っていた地域にとどまらず、福島県の広い地域に、人の体に影響がありえる高濃度の汚染を引き起こしました。また福島県内だけでなく、東日本を中心とした広い範囲に拡散し、このままでは安全に生活ができない、除染をしなくてはいけない土地をたくさん生みだしました。

② 事故で出された放射能は、世界各地にも広がっていること

放射性物質は、洗ったり燃やしたり化学変化をさせたりしても、消すことができません。長い時間放射線を出し続ける物質です。これが空気中では風に乗ったり海流に乗ったりして、濃度は薄くなっても世界中に広がっています。場所によっては寄せ集まり、濃度が高まる恐れもあるのです。

③ 福島県を中心に、たくさんの子どもを含めた住民が避難をしなくてはならなかったこと、そしてまだ帰れるめどがたっていないこと

放射能に汚染された地域では、事故直後から国の命令で、自分たちの住んでいた地域から退去し避難しなくてはならない人が大勢出ました。そして今も高濃度の放射能が自分たちの地域を汚染していることで、避難を続けなくてはならない人たちが大勢います。いつ帰れるのか、帰って元のように仕事や生活ができるのか、まだ見通しの立たない状況が続いている人たちが大勢います。

④ 原発事故から、食べ物が放射能に汚染されていないか不安に見られ、特に東日本の農作物が売れなくなっていること

原発事故による放射能汚染が少なかった場所でも、そこで生産された農作物が放射能に汚染されていないか心配をする声があります。少しでも安全な食物をとるように注意をしていくことで、少しでも不安な気持ちになるものは排除されてしまいます。安全性に問題がない場合でも、社会の評判や場所のイメージだけで買われなくなってしまったものが、東日本中心に大量に出ています。

【2】いっしょに考えてほしいこと

① 原発事故の対応をどう引き継いでいくのがいいか

原発事故の影響は数十年もしくは百年以上も続きます。今の大人だけではとても解決できない問題がたくさんあり、君たちの世代や次の世代もこの問題にあたってもらうほかありません。どう解決していくのがいいのか、今でも答えがない問題をいっしょに考えていってほしいのです。

② 除染した放射性廃棄物をどこで保管していくのがいいか

これから広い地域で、放射能に汚染された土地を除染していく必要があります。放射能はどこかに集めたり濃縮したりすることはできても、なくなりはずしません。影響の少ない状態になるまで、長い時間をかけて待つしかないのです。その間どこに汚染されたものを保管すればいいのでしょうか。だれも近くに汚染物質があつてほしくないと思っています。

③ エネルギーをどうしていくのがいいか

原子力発電所は大量の電力を作り、二酸化炭素を出さないので地球温暖化対策にも効果があると考えられてきました。しかし、今回のように一度事故を起こすと取り返しのつかない被害が出ます。なぜ原子力発電が必要だったのか、原子力発電がなければ必要な電力はまかなえないのか。今後の日本のエネルギーをどうしていくか、大きなテーマですがこれも考えていってほしいことです。

【3】学びの視点

① 大きいエネルギーと小さいエネルギー

強く大きなエネルギーを作りそれをどう分配するかを、これまでの電力供給では考えてきました。太陽や風力、小型水力、バイオマスは、それに比較するととても小さなエネルギーです。それぞれに利点と弱点があります。これからの時代、それらをどうとらえ、どのように使うのがいいのでしょうか。

② 誰かが恩恵を受け、誰かが負担を受け止める

大都市では大量の電力を必要としています。しかしその電力は大都市ではなく遠い地方で作られてきました。地方は地域の産業が必要で、発電所という生産拠点をもちましたが、それにはリスクや負担も追ってきました。誰かのために違う誰かが負担を負う、その分担でよかったのでしょうか。

③ 豊かさとは、幸せとは、希望とは

大きな震災と原発事故、その後の社会の混乱など、これまでの価値観を大きく変える出来事が続きました。これまで社会が当たり前に思ってきたこと、豊かさや幸せとは何か、そして希望とは。人が生きるうえで、また社会をつくる基本として、本当に大事なことを見つめなおす時期ではないでしょうか。